企画セッション

◆ AI の進化と知財実務の変化 ◆

＜日時＞　2025 年 11 月 30 日（日）12:00～13:30

【パネリスト】（敬称略、五十音順）

阿部 琢磨（キヤノン株式会社）
新井 泰弘（高知大学 人文社会科学部　准教授）
大西 宏一郎（早稲田大学 教育・総合科学学術院　教授）
桂 正憲（一般財団法人 知的財産研究教育財団　理事長）

【モデレータ】

山内 勇 明治大学 情報コミュニケーション学部　教授）

【概　要】

生成AIは近年、自然言語処理・画像解析から創造的生成まで飛躍的に性能を高め、知財実務の前提を塗り替えつつある。特許分類・先行技術調査・クレームドラフティングなど従来専門家が担ってきた作業の一部は、AIによる高速・高精度な自動化が進み、実務者は戦略立案や判断根拠の検証といった高次タスクへ役割をシフトし始めている。特に、生成AIと検索アルゴリズムの融合により、膨大な先行技術文献から価値ある知見を抽出するプロセスは劇的に効率化し、研究開発サイクルや投資判断のスピードも変革している。

一方で、AI出力をいかに実務に実装し品質保証を行うか、データや出力のバイアスをどう制御するか、説明責任をどう補完するかなど、実務家にとっての新たな課題も顕在化してきている。本企画は、産官学の第一人者を招き、①各分野での生成 AI の活用状況、②AIが置換・強化する業務領域と人間の付加する価値、③新たに創出される職務や必要となるスキルなどについて多角的な議論を行う。本企画を通じ、参加者が自社の知財戦略を再設計し、AIを活用した新たな知的財産の創造・保護・活用サイクルを構築するための視座を得ることを目的とする。

企画セッション

◆ AI の進化と知財実務の変化 ◆

【講演者略歴】（敬称略、五十音順）

阿部 琢磨

キヤノン株式会社入社後、電子写真式複写機の開発に従事。その後、弁理士試験合格を機に知的財産法務本部へ異動し、特許出願および権利化業務を担当。続いて知的財産研究所へ出向し、知的財産制度改正に関する研究に従事。帰任後は、全社発明奨励規程の改正や発明奨励イベントの新設を主導するなど、様々な企画から実施までを統括。現在は、全社知財システムの運営および知財業務の DX 推進に取り組んでいる。

新井 泰弘

早稲田大学商学部卒業後、一橋大学経済学研究科で博士号（経済学、2009 年）を取得。産業組織論と法と経済学を専門とし、知的財産権、特に著作権保護の経済理論分析を行っている。近年は消費者保護制度の設計にも関心。

大西 宏一郎

2007 年一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士号（経済学）取得。2005 年財団法人知的財産研究所研究員、2006 年文部科学省科学技術政策研究所研究員、2009 年大阪工業大学知的財産学部専任講師、同准教授、2018 年早稲田大学教育・総合科学学術院准教授などを経て、2022 年より現職。専門はイノベーションの経済学、産業組織論。

桂 正憲

１９８９年４月特許庁入庁。通信分野等の特許審査・審判実務を担当するとともに、総務課、調整課等で各種行政事務に従事。（財）知的財産研究所研究第二部長、（独）産業技術総合研究所知的財産部長等を務めた後、２０２２年７月より特許技監（兼ＣＩＯ）。２０２４年７月に特許庁を退官し、２０２５年６月より現職。弁理士。

以　上